

SCHEDULE 令和4年度(4月~6月)

4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
APR	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
展示室1	普通展示(浮世絵): 明治の美人画 楊洲周延II (~4/10)										普通展示(浮世絵): 小林清親 (4/12~5/15)																				
展示室2	普通展示(東洋陶磁): やきものの装飾 描画 (~4/10)										普通展示(東洋陶磁): 世界を魅了したやきもの 青花磁器 (4/12~8/28)																				
展示室3~6	第45回山口伝統工芸展 (4/9~4/17)															特別展示: 千葉市美術館所蔵 新版画-進化系 UKIYO-E の美 (4/23~6/19)															
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力 (~12/18)																														
展示室8	普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸II (~5/15)																														
特選鑑賞室	歌川広重 名所江戸百景 堀切の花菖蒲 (4/1~4/30)																														
茶室	イワタリ GLASS × 鉄 × 茶室 (4/2~2023.3/26)																														
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
MAY	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
展示室1	普通展示(浮世絵): 小林清親 (~5/15)										普通展示(浮世絵): 郷愁の風景-川瀬巴水 (5/17~6/19)																				
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 世界を魅了したやきもの 青花磁器 (~8/28)																														
展示室3~6	特別展示: 千葉市美術館所蔵 新版画-進化系 UKIYO-E の美 (~6/19)																														
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力 (~12/18)																														
展示室8	普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸II (~5/15)															普通展示(陶芸): 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念 (5/17~12/18)															
特選鑑賞室	歌川広重 名所江戸百景 駒形堂吾嬢橋 (5/1~5/31)																														
茶室	イワタリ GLASS × 鉄 × 茶室 (~2023.3/26)																														
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
JUN	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
展示室1	普通展示(浮世絵): 郷愁の風景-川瀬巴水 (~6/19)										普通展示(浮世絵): 水野年方 (6/21~7/24)																				
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 世界を魅了したやきもの 青花磁器 (~8/28)																														
展示室3~6	特別展示: 千葉市美術館所蔵 新版画-進化系 UKIYO-E の美 (~6/19)																														
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力 (~12/18)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念 (~12/18)																														
特選鑑賞室	歌川国芳 東都名所 すがたひ (6/1~6/30)																														
茶室	イワタリ GLASS × 鉄 × 茶室 (~2023.3/26)																														

★ イベント

記念講演会(聴講無料)

- 【日時】 4月23日(土) 13:30~15:00
 - 【演題】 渡邊庄三郎と新版画
 - 【講師】 西山純子氏(千葉市美術館 上席学芸員)
 - 【会場】 本館講座室 【定員】 40名(要事前予約)
- 美術館シールラリー**
- 【日時】 4月29日(金・祝)~5月5日(木・祝)
 - 【内容】 館内を巡ってシールを集めて 特製の「しおり」を完成させよう
 - 【参加費】 無料(但し要観覧券)

● ギャラリー・ツアー

- 〈担当学芸員による特別展示作品解説〉
- 「千葉市美術館所蔵 新版画-進化系 UKIYO-E の美」
- 【日時】 会期中の毎週日曜日 11:00~12:00
- 【定員】 各日20名(要事前予約・要観覧券)

◆ ギャラリー・トーク

- 〈担当学芸員による展示作品解説〉
- いずれも11:00~(30分程度)
- ◆ 4月 9日(土) やきものの装飾 描画
- ◆ 5月14日(土) 小林清親
- ◆ 6月11日(土) 郷愁の風景-川瀬巴水
- ◆ 6月25日(土) 世界を魅了した やきもの青花磁器
- 【定員】 各日10名(要事前予約・要観覧券)

● アーティスト・トーク

- 〈止原理美氏による展示作品解説〉
- ◆ 5月28日(土)
- 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念
- 【定員】 10名(要事前予約・要観覧券)

事前予約について

- 電話またはWEBにてお申し込みください。
- 【電話の場合】 TEL 0838-24-2400にて、①~④をお知らせください
- ①参加するイベント名 ②参加者の氏名 ③年齢 ④代表者の日中の連絡先電話番号
- 【WEBの場合】 WEBからのご予約は 美術館ホームページをご覧ください
- ※お申込受付は先着順です
- ※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへの ご参加には観覧券が必要です
- ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。 URL: <https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/> 【お問い合わせ】 TEL 0838-24-2400

交通アクセス

- 【新山口駅から】
 - 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で 萩・明倫センター下車、徒歩約5分
 - 防長バス(約90分)で 萩バスセンター下車、徒歩約12分
- 【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]
 - 「中国自動車道」美祿東 JCT 経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分 約70~80分(利用前日までに要予約)
 - 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い
- 【JR山陰本線】
 - JR 萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
 - JR 東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
 - JR 玉江駅から徒歩約20分
- 【自動車】
 - 「中国自動車道」美祿東 JCT 経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 - 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



最新情報は公式 SNS で

H A G I 萩

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

103

SPRING ISSUE
2022

進化系 UKIYO-E の美

千葉市美術館所蔵 新版画



SHINTANGA

千葉市美術館所蔵

新版画

進化系UKIYO-Eの美

橋口五葉
「髪梳ける女」
(部分)
大正9年
(1920)



新版画とは

新版画とは、浮世絵の流れを汲む近代の木版画をさす。大正期のはじめ、渡邊庄三郎(1885-1962)というひとりの版元が、衰微しつつあった浮世絵の技術と、同時代の若い画家の感性を結びつけるべく創始した、新たなジャンルである。渡邊は、彫師と摺師それぞれの技を大切にしながらも、絵師／画家の表現したいものを優先する創作的な木版画を構想した。そして、かつてない造形を得るために外国人の画家と組み、あるいは日本人であっても、日本画と洋



山村耕花「四代目尾上松助の蝙蝠安」
大正6年(1917)

画を往還して己の立ち位置を探るような、進取の気性に富んだ画家に声をかけた。結果、伊東深水の美人画や川瀬巴水の風景画に代表される、清新な表現を形にして次々と世に送った。新版画はその後、大正期の末には他の版元も参入する大きな流れとなり、また橋口五葉や吉田博のように、私家版により独自の表現を追求する画家も現れた。戦中までに制作された作品の総数は、2,000点とも3,000点ともいわれている。

新版画の魅力

新版画の魅力を端的に言うならば、長く培われた技術と新しい感性が融合し、また和の美と洋の美が渾然する、ハイブリッドな点ではないかと思う。そしていまひとつはやはり、前面に押し出された画家の個性であろう。たとえば新版画の最初の作家となったオーストリア人フリッツ・カペラリ作品は、表情豊かでユーモラスな描線とグラフィカルな画面構成を見せ、伊東深水による最初期の作品には、社会の底辺に生きる人々への温かな眼差しや、若さゆえの情念のようなものが感じられる。川瀬巴水の風景画は、眼前の景色とそこに生きる人々への細やかな愛情が見るものの共感を呼び、対する吉田博は、洋画家の経験を存



フリッツ・カペラリ「鏡の前の女(立姿)」
大正4年(1915)



吉田博「雲井櫻」大正15年(1926)



川瀬巴水「旅みやげ第二集 佐渡相川町」大正10年(1921)

分に活かして光の移ろうさまや空気感をデリケートに、ありありと伝える。山村耕花の役者絵からは、名優たちの発する色香とともに、舞台における虚実のあわいが透けて見えるし、橋口五葉の私家版は、五葉が理想とした典雅で無垢なる女性像を描き出す。片や小早川清の私家版における派手やかな女たちは、こちらに時に挑発的な視線を投げかけ、モガの時代を謳歌する。これらの画家が放つ強烈な個性がいずれも、伝統的な彫摺との相克を経て作品化されるところに、新版画の魅力と面白さがあるのではないだろうか。

新版画の再評価

いち早く欧米で認められ、夥しい数の作品が国外に流出した浮世絵版画と同様、新版画も国内よりは海外で評価される時期が長く続いたが、近年、その技と美が改めて注目を集めている。とりわけ川瀬巴水や吉田博の風景画が人気という。再評価の背景に、作品に描かれた「古き良き日本」へのノスタルジーがあ



小早川清「近世時世粧ノ内ーほろ酔ひ」昭和5年(1930)

るのは疑いないが、新版画ファンは中高年層だけではない。超絶技巧を再評価する風潮や、制作方法の通ずるアニメーション人気が追い風となり、若い世代にも確実にファンが増えている。新版画の作品集を座右に置くアニメーターも多いと聞く。また、筆者がいくつかの展覧会を企画したなかで感じたのは、昨今の、風景に対する眼差しの変化である。災害を数多く経験し、目前の景色が一瞬で失われるかもしれないという危機感

を共有した私たちは、なにげない風景のかけがえのなさに気づき始めたのかもしれない。いずれにしても、新たな鑑賞のしかたが開拓されているとしたら悪くない、いやすばらしいことだと思う。アートは時代により見直され、生き直すものだということが実感される。

千葉市美術館の 新版画コレクション

千葉市美術館は、1995年の開館以来、浮世絵を収集の重要な柱のひとつとしてきた。新版画コレクションもまた、その後史をたどるべく、20年以上をかけて形成されてきたものである。手前味噌ながら、主要作家と代表作が網羅され、とりわけ最初期の実験的な優品が揃うことや、比較的状态がよく鮮やかな発色を楽しめることが特筆される。そしてこのたび、当館が所蔵する新版画コレクションから、その前史も含めて選りすぐった約190点を、山口県立萩美術館・浦上記念館で展示させていただき運びとなった。とびきりの浮世絵コレクションを誇る美術館で、目の肥えたお客さまたちがどう評価して下さるのか、楽しみでもあり、正直少々不安でもあるが、伝統技術の粋と近代的な表現の華やかな融合を、そして近代ならではの版の絵の面白さを、ご堪能いただけたら幸いである。

(本展監修者・千葉市美術館 上席学芸員 西山純子)

新版画

千葉市美術館
所蔵
SHIN
HANGA



小早川清「ダンサー」(部分)
昭和7年(1932)

進化系UKIYO-Eの美

2022 4.23(土) - 6.19(日)

前期 4.23(土) - 5.22(日) 後期 5.24(火) - 6.19(日)

休館日 / 4月25日(月)、5月9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)、6月13日(月)
開館時間 / 9:00 - 17:00 (入場は16:30まで)
観覧料 / 一般1,500(1,300)円 学生1,300(1,100)円 70歳以上1,200(1,000)円
【開催中の普通展示もご覧いただけます。】

※()は前売りおよび20名以上の団体料金。※18歳以下の方と高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。※前売券は、ローンチケット(Lコード 63104)、セブンチケットでお求めいただけます。※割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

【主催】新版画展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、tysテレビ山口)、日本経済新聞社 【後援】山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会
【特別協力】千葉市美術館、エフエム山口

イベントの
ご案内

記念講演会「渡邊庄三郎と新版画」
【講師】西山純子氏(千葉市美術館 上席学芸員)
※要事前申込・聴講無料(先着40名)
【日時】4月23日(土) 13:30~15:00 【会場】本館講座室

ギャラリーツアー(担当学芸員による作品解説)
※要観覧券・要事前申込(先着20名)
【日時】会期中、毎週日曜日 11:00~12:00
【会場】本館2階展示室

お申し込みは
電話
0838-24-2400
または
美術館HPで



※新型コロナウイルス感染状況によって変更になる可能性があります。

現在形の陶芸

THE HAGI TAISHOU (GRAND PRIX) OF CONTEMPORARY CERAMICS VI

萩大賞展 VI

作品募集案内

- 👑 萩大賞(副賞 100万円)
- 👑 柏原美術館賞(副賞 20万円)
- 👑 優秀賞(副賞 5万円)
- 👑 審査員特別賞ほか

◎ 第1次申込み受付期間

2022年8月1日(月)~9月18日(日)
【日本時間9月18日(日)17時まで】

※募集要項は当館ホームページでも掲載しています。

◎ 審査員(予定・五十音順・敬称略)

榎本 徹(可見市荒川豊蔵資料館特別顧問)
金子 賢治(茨城県陶芸美術館館長)
後藤 修(山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監兼学芸課長)

◎ 展覧会会期

2023年1月2日(月)~2月26日(日)
9時~17時(入場は16時30分まで)
【休館日】1月10日(火)、1月16日(月)、1月23日(月)、1月30日(月)、
2月13日(月)、2月20日(月)

◎ 展覧会会場

山口県立萩美術館・浦上記念館陶芸館 1階・2階展示室

【主催】現在形の陶芸 萩大賞展VI実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、萩市、萩市教育委員会、萩市文化協会、萩陶芸家協会)
【助成】カシワバラ・コーポレーション



止原理美「黒蛸場壺」2019年
「現在形の陶芸 萩大賞展V」大賞受賞作品

展示室1〈浮世絵〉

小林清親

【会期】4月12日(火) — 5月15日(日)

小林清親(1847~1915)は、幕末・明治期に日本へ伝えられた西洋絵画や印刷、写真から学んだ陰影法や明暗法などの手法を用い、光と影を合理的に表現する「光線画」という新しい様式の風景版画を確立しました。浮世絵版画の伝統的な技術と、西洋の絵画表現を融合させた魅力的な作品をのこした清親は、近代版画の先駆的な存在として高く評価されています。今回は光線画を中心に稀少な初期の作品や花鳥画もあわせてご紹介します。



「今戸夏月」横大判錦絵 明治14年(1881)

展示室1〈浮世絵〉

郷愁の風景－川瀬巴水

【会期】5月17日(火) — 6月19日(日)

川瀬巴水(1883~1957)は、大正から昭和にかけて活躍した木版画家です。幼い頃から絵を好み、画家の道を志しますが、本格的に修行をはじめたのは、同門の伊東深水が手がけた木版画に魅了され、大正7年(1918)から版元の渡邊庄三郎と組んで風景版画を発表し、好評を得ました。巴水は、住み慣れた東京をはじめ日本全国を旅行してスケッチをし、それをもとに版画をつくるという暮らしを亡くなる直前まで続けました。

四季のうつろいを詩情ゆたかに描きとめ、人々の穏やかな暮らしを点景に織りなす巴水の風景版画は、みる人を古きよき日本へといざないます。



「東京二十景 馬込の月」
大判・多色摺木版画 昭和5年(1930)

展示室1〈浮世絵〉

水野年方

【会期】6月21日(火) — 7月24日(日)

水野年方(1866~1908)は、月岡芳年(1839~1892)の門人で、芝田芳州・三島蕉窓・渡邊省亭の画風を学び、穏やかで気品ある独自の画風を確立しました。はじめは新聞の挿絵画家として活躍し、時代とともに日本画家へ転身していきます。錦絵が終焉を迎えた明治30年代(1897~1906)まで、美人画のシリーズを次々と発表しました。また、鏗木清方をはじめ多くの門人を育成し、浮世絵の流れを次世代の日本画へと結ぶ役割を果たしています。



報知新聞を持つ女性
「号外」『文芸倶楽部』
第10巻8号 博文館
明治37年(1904)

展示室2〈東洋陶磁〉

世界を魅了したやきもの 青花磁器

【会期】4月12日(火) — 8月28日(日)

青花磁器(日本では染付磁器)とは、白磁の美しい白い胎土の上にコバルト顔料で絵付けをし、さらに上から高火度焼成に耐えうる透明釉を掛けて焼き上げたやきもので、釉の下に絵付けをする「釉下彩」の技法が用いられています。

胎土や顔料、窯で焼成する際の温度や酸化、還元の状態などの要因で品質は大きく異なり、14世紀半ばから本格的な生産が始まったとされる中国・景德鎮窯では、元時代と、続く明時代の名品が数多く知られています。その後14世紀後半にはベトナムで、15世紀前半には朝鮮半島で、17世紀初頭には日本でそれぞれ中国の青花磁器を模倣したやきものが作られました。このほかイスラム圏やヨーロッパ圏のやき

ものにも影響を与え、英語圏では"blue-and-white"と呼ばれ、中国を代表する工芸品として高く評価されています。

本展では、中国・景德鎮窯に始まり世界中で珍重され、また模倣された各国の青花磁器を、館藏品の中から厳選してご紹介します。



「青花龍文瓶」中国・景德鎮窯
元時代 14世紀

展示室7〈陶芸〉

陶 - 創造の逸脱力

【会期】3月15日(火) - 12月18日(日)

戦後以降の日本陶芸の歩みの中で最も画期的なことはいかに自己の意志を陶の造形作品に表現していくかという新たな表現領域を切り拓いてきたことでした。それはこれまでの伝統的なやきものの実用性や装飾性から逸脱し、陶が持つ本質的な造形性とは何かと問うことでした。

今展では、「エロス(愛)」と「タナトス(死)」をテーマに自己の内的世界を独自の造形表現でかたちにし

三島喜美代
《ニュースペーパー'87》
1987年



てきた三輪龍氣生の《古代の人・王墓/王妃墓》や、新聞や雑誌、チラシなどの印刷物をシルクスクリーンで陶に転写した三島喜美代の「やきものの印刷物」の作品を展示し、「死」や「情報」といった身近な存在を圧倒的な量感で顕在化させた陶のかたちを紹介し

止原理美《黒蜥蜴壺》2019年
「現在形の陶芸 萩大賞展V」
大賞受賞作品



展示室8〈陶芸・工芸〉

止原理美展 - 現在形の陶芸 萩大賞展V大賞受賞記念

【会期】5月17日(火) - 12月18日(日)

本展は2019年度に当館で開催されました公募展「現在形の陶芸 萩大賞展V」における止原理美氏(1976年生まれ)の大賞受賞を記念した展覧会です。止原は、萩焼の伝統的な窯元である三輪窯での修行ののち、父・伸郎の開いた土和窯で自身の作品の制作を始めました。

大学で畜産を学んだ止原は、作陶において生物の造形にこだわり続けています。黒陶を丹念に磨き上げることによって実在しない色調ながらも生を感じる肌感と、1点ずつ色釉で着色した光沢を持つ眼球を組み合

わせることで、命の宿らない無機物にもかかわらず今にも動き出しそうな生命力が表現されています。

近年では、再生の象徴としての蝶々のモチーフを取り入れ、生と死、そして再生までもが作品の中に落とし込まれています。萩焼の伝統的な窯元での修行のうに、自身の中にある具象表現を取り入れた、止原の最新作品の数々をお楽しみください。

アーティスト・トーク ※要観覧券、事前申込
【日時】5月28日(土) 11:00~
止原理美氏ご本人による作品解説です。

※5ページに今年度開催の「現在形の陶芸 萩大賞展VI」の作品募集案内を掲載しています。

茶室 イワタルリ GLASS × 鉄 × 茶室

【会期】4月2日(土) ~ 2023年3月26日(日)

特選鑑賞室

特選鑑賞室では、当館が所蔵する浮世絵版画の名品を毎月1点ずつご紹介します。令和4年度のテーマは、江戸時代後期に流行した風景画です。世界的に著名な葛飾北斎(1760~1849)や歌川広重(1797~1858)の代表作をはじめ個性あふれる風景画をご覧いただけます。これらの作品は、日本絵画に特有の表現技法だけでなく、遠近法や陰影法などの表現技法や舶来の絵具など、西洋絵画の影響が認められる点が特徴です。

2022
4月



歌川広重
「名所江戸百景 堀切の花菖蒲」
安政4年(1857) 大判錦絵

花菖蒲の間から菖蒲園を透かし見る洒落な構図。隅田川と綾瀨川が合流する堀切村の湿地帯は花菖蒲栽培が盛んでした。小高伊左衛門が始めた菖蒲園は江戸随一と評判を得て、後にできた武蔵園と共に多くの人が訪れました。

5月



歌川広重
「名所江戸百景 駒形堂吾嬭橋」
安政4年(1857) 大判錦絵

駒形堂の上空を舞うホトギス。高尾太夫の句「君は今駒形あたりホトギス」が連想されます。赤い吹き流しは紅屋の看板。黒い雨雲から雨が降り出しています。隅田川を俯瞰する構図は、空間の拡がりを感じさせます。

6月



歌川国芳
「東都名所 するかだひ」
天保(1830~1844)初期 横大判錦絵

駿河台を流れる神田川の土手。雨上がりの虹を眺めて歩く武士と従者。反対から濡れた傘の雫を落として歩く人。谷間の奥には江戸っ子が誇る神田上水の懸樋が架かります。陰影法や遠近法など洋風表現が顕著に見られます。

7月



溪斎英泉
「木曾路駅 野尻 伊奈川橋遠景」
天保6~7年(1835~1836)頃 横大判錦絵

『木曾海道六十九次』は、絵師が溪斎英泉から歌川広重、版元が保永堂から錦樹堂と変わり71回で完結しました。伊奈川の急流に架かる伊奈川橋は、橋脚のない反橋。幾何学的な水や橋の表現に北斎の影響が指摘されます。

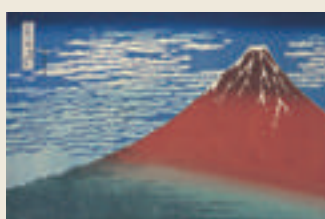
8月



葛飾北斎
「富嶽三十六景 甲州三坂水面」
天保2~5年(1831~1834) 横大判錦絵

葛飾北斎が富士山の諸相を描いた「富嶽三十六景」は浮世絵の代表作。本図は河口湖に映る逆さ富士。岩肌が見える夏の富士山だが、湖水の影は山頂に雪を頂く冬景色。さらに位置は点対称にずれており、見る者を驚かせます。

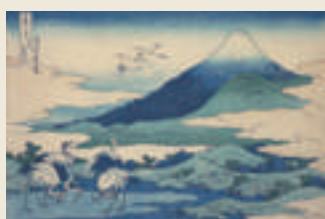
9月



葛飾北斎
「富嶽三十六景 凱風快晴」
天保2~5年(1831~1834) 横大判錦絵

「赤富士」と俗称される最も有名な富士山図。凱風は初夏のそよ風のこと。夏から秋の早朝に見られるという富士山が赤く染まる現象を、北斎はシンプルな形と彩色によって、神秘的で堂々たる山岳風景画に昇華させています。

10月



葛飾北斎
「富嶽三十六景 相州梅沢左」
天保2~5年(1831~1834) 横大判錦絵

富士山を背景に飛翔する2羽の鶴と水辺に鶴の群れというおめでたい図。鮮やかな青色はベルリンで開発された合成染料プルシアン・ブルー。藍摺とよばれた青色のぼかし摺は、本シリーズの人気に結び付いたと伝えられます。

11月



歌川広重
「名所江戸百景 浅草田圃西の町詣」
安政4年(1857) 大判錦絵

吉原妓楼の2階座敷。格子窓の外に11月の例祭「西の市」(西の祭)で賑わう鷺神社が見えます。縁起物の熊手をかたどる簪は客から遊女への贈物でしょう。外を眺める猫が、籠の鳥である遊女の心情を代弁しているようです。

12月



葛飾北斎
「富嶽三十六景 礪川雪ノ旦」
天保2~5年(1831~1834) 横大判錦絵

本シリーズ唯一の雪景色。雪晴れの朝、銀世界となった江戸の町と雪化粧の富士山を小石川南端にある牛天神社境内の茶屋から眺める人々。女性が指差すのは富士山か空を飛ぶ鳥でしょうか。空間のひろがりを一層感じます。

2023
1月



歌川広重
「東海道五十三次之内 亀山 雪晴」
天保4~5年(1833~1834) 横大判錦絵

保永堂版『東海道五十三次之内』は広重の出世作。亀山は斜めの構図が画面に奥行きを与え、白を基調に空の青、朝陽の紅と明快な彩色が、陽光や澄んだ冷気を感じさせます。右上の京口門に馬や旅人が歩みを進めています。

2月



勝川春亭
「相州江之嶋ノ図」
文化(1804~1818)初期 横大判錦絵

音曲を司る弁財天を祀る江の島。歌舞伎役者や音楽家の信仰を集め、江戸に近い行楽地として江戸市民が訪れました。本図は銅版画に做った線による陰影表現と、色の濃淡による空気遠近法が独特な画趣を生じています。

3月



歌川広重
「京都名所之内 あらし山満花」
天保5年(1834)頃 横大判錦絵

嵐山は桜の名所。桂川沿いの桜並木の下を歩く人や水面に浮かぶ花びら、そして水の青色と桜の淡いピンク色の対比が春爛漫の様子を伝えます。筏船から立ち昇る煙は、のどかさを演出しつつ、画面の深さを表現しています。



令和4(2022)年度

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館 メンバーズクラブ会員募集

山口県立美術館および山口県立萩美術館・浦上記念館の
展示会等を通じて美術に広く親しんでいただき、地域文化の
向上に寄与することを目的として、2014年4月に「県立美術館
メンバーズクラブ」を設立しました。現在、会員を募集中です。
特典は入会したその日から使えます。皆さまのご入会をお待ち
しております。

年会費

- 一般：2,800円
- 学生(19歳以上の学生)：2,300円
- シニア(70歳以上)：1,900円

※学生・教職員の方はキャンパスメンバーズもご利用いただけます(但し加盟校の方が対象です)。加盟校、内容は2館のホームページでご確認ください。

有効期間

令和4年3月1日(火)～令和5年3月31日(金)

募集期間

令和4年3月1日(火)～令和4年7月31日(日)

主な会員特典

2館の特別展示の中から、お好きな展示会を5回まで無料、6回目以降は半額でご覧いただけます。さらに普通展示(コレクション展)は何回でも無料でご覧いただけます。

会員証の提示で全国の提携館の入館料が割引になります。

【提携館・提携施設】

サントリー美術館(東京・港区)／DIC川村記念美術館(千葉・佐倉)／植田正治写真美術館(鳥取・伯耆)／足立美術館(島根・安来)／島根県立美術館(島根・松江、但し2021年5月25日～2022年5月(予定)まで改修工事のため休館)／島根県立古代出雲歴史博物館(島根・出雲)／島根県立石見美術館(島根県芸術文化センター「グラントワ」)(島根・益田)／尾道市立美術館(広島・尾道)／ひろしま美術館(広島・中区)、広島県立美術館(広島・中区)／広島市現代美術館(広島・南区、但し2020年12月28日～2023年3月(予定)まで改修工事のため休館)／愛媛県美術館(愛媛・松山)
※詳しい割引内容はご利用の美術館・博物館でご確認ください。

その他、会員限定イベントや展示会情報のお届けなど詳しくはチラシまたはホームページで。

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く
山口県立美術館 TEL 083-925-7788
山口県立萩美術館・浦上記念館 TEL 0838-24-2400

令和4(2022)年度

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館 法人サポーターズ会員募集

法人サポーターズは、山口県立美術館および山口県立萩美術館・浦上記念館が行う文化芸術活動の充実強化を、地域の法人および個人事業主のみなさまにサポートしていただくことを目的とした会員制度です。なお、会員特典は従業員の皆さまの福利厚生や、お世話になっている方へのプレゼントとしてもご利用いただけます。

年会費

- プラチナ会員：1口 10万円(税込)
- ゴールド会員：1口 5万円(税込)

有効期間

令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)

申込受付期間

令和4年5月31日(火)まで

会員特典

- 1 会員証の提示で、特別展示と普通展示(コレクション展)が2名様まで無料で何度でも観覧できます。
- 2 特別展示共通の招待券を贈呈します。
※プラチナ会員は100枚、ゴールド会員は40枚
- 3 特別展示の開会式にご招待します。
※プラチナ会員のみ
- 4 美術館情報を定期的にご案内します。
- 5 会員の社名・団体名を館内や両館のホームページで紹介いたします。

【会員区分と特典一覧】

	プラチナ会員	ゴールド会員
年会費	10万円／1口	5万円／1口
会員証	2枚 会員証提示で特別展示・普通展示とも2名まで無料 ※回数制限なし	1枚
特別展共通券	県美・萩美 各50枚	県美・萩美 各20枚
開会式ご招待	○	×
ご案内送付	○	○
社名紹介(館内)	○	×
社名紹介(HP)	○	○

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く
県立美術館法人サポーターズ事務局 TEL 083-925-7788
(山口県立美術館指定管理者サントリー・パブリシティサービスグループ)

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館

令和4(2022)年度の特別展示ラインナップ

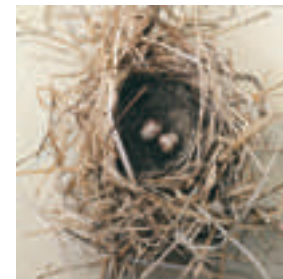
山口県立美術館

野田弘志 真理のリアリズム

2022年 4/27(水)～6/19(日)

〈休館日〉月曜日(ただし5/2、6/6は開館)

野田弘志(1936-)は、日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人です。本展では、学生時代の作品から、新聞連載小説『湿原』(加賀乙彦著)の挿絵原画、近年手掛けている等身大肖像のシリーズ「聖なるもの」「崇高なるもの」まで、その画業の全容を回顧し、この画家が追求してきたリアリズムの道をたどります。



〈聖なるもの THE-IV〉
2013年 ホキ美術館

庵野秀明展

2022年 7/8(金)～9/4(日)

〈休館日〉月曜日(ただし7/18、8/1は開館)

総監督を務めた最新作『シン・エヴァンゲリオン劇場版』(2021)が興行収入100億円を超える大ヒットとなった庵野秀明(1960-)。本展では、庵野がアマチュア時代、アニメーター時代に参加していた作品から、監督、プロデューサーとして活躍する最新の仕事まで、多彩な制作資料等を余すことなく展示し、その創作活動の秘密に迫ります。



雪舟と室町文化

将軍家の襖絵／雪舟と狩野派

2022年 9/16(金)～10/16(日)

〈休館日〉9/26

中国の名画を「唐絵」と呼んで尊重し、制作の規範にした室町時代の美術文化は、足利将軍家から徳川将軍家へと継承され、武家文化の大きな柱の一つになりました。本展では、周文…雪舟…江戸狩野派という唐絵画家(漢画師)の系譜によって担われた水墨画の歴史を、「将軍家の襖絵」／「雪舟と狩野派」という2つの展示(同時開催)によって辿ります。



伝 天章周文(山水図屏風) 室町時代 ウッドワン美術館



雪舟等楊(山水図) 室町時代 絲原記念館

【開館時間】9:00～17:00(入場は16:00まで)
【休館日】月曜日(祝日・休日、特別展開催中のファーストマンデー(第一月曜日)は開館)、年末年始、展示替え期間
【観覧料】コレクション展示 一般300円／学生200円
※70歳以上18歳以下は無料。
※特別展は展示会によって観覧料が異なります。
※団体の受け入れを休止しています。
【住所】〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL 083-925-7788 FAX 083-925-7790

山口県立萩美術館・浦上記念館

千葉市美術館所蔵

吉田博
〈浦内海集 光る海〉
大正15年(1926)



新版画

-進化系 UKIYO-E の美

2022年 4/23(土)～6/19(日)

【前期】～5/22(日) 【後期】5/24(火)～

〈休館日〉月曜日(ただし5/2、6/6は開館)

新版画は、浮世絵版画の技術と美意識を継承すべく、版元・渡邊庄三郎(1885-1962)が大正初期に創始した木版画。制作当初からアメリカを中心に国内外で人気を博しました。本展は千葉市美術館のコレクションから約190点を厳選し、新版画の歴史をご紹介します。

日本工芸会陶芸部会50周年記念展

未来へつなぐ陶芸-伝統工芸のチカラ展

2022年 7/2(土)～8/28(日)

〈休館日〉月曜日(ただし7/4-18、8/1は開館)、7/19(火)

重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)を中心に伝統工芸作家、技術者等で組織する公益社団法人日本工芸会。その工芸分野の一つである陶芸部会が今年で50周年を迎え、これを記念して本展を開催します。所属作家、さらにそれ以外の陶芸家137名の作品139点を展示し、伝統陶芸の歩みと未来へとつなぐ陶芸の技と美をご紹介します。



三輪壽雪
〈白萩手桶花入〉1965年
山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
撮影:宮野正喜氏

蒐集家 浦上敏朗の眼

浮世絵・やきもの名品展

2022年 9/10(土)～11/13(日)

【前期】～10/10(月・祝) 【後期】10/12(水)～

〈休館日〉月曜日(ただし9/19、10/3-10、11/7は開館)、9/20(火)、10/11(火)

当館は、萩市出身の実業家 浦上敏朗氏が蒐集された美術品の寄贈を契機に開館しました。2020年に逝去された浦上氏を偲んで開催する本展では、浦上コレクションから浮世絵、中国・朝鮮古陶磁の逸品をご紹介します。



葛飾北斎
〈風流無くてなぐせ 遠眼鏡〉
享和期(1801～1804)頃
浦上敏朗氏寄贈

現在形の陶芸 萩大賞展VI

2023年1/2(月)～2/26(日)

〈休館日〉月曜日(ただし1/2-9、2/6は開館)、1/10(火)

第6回目となる陶芸の公募展。募集した作品の中から、厳選な審査を通過した優秀作品をご紹介します。



止原理美(黒蜃鱗壺)2019年
〔現在形の陶芸 萩大賞展VI〕大賞受賞作品

【開館時間】9:00～17:00(入場は16:30まで)
【休館日】月曜日(祝日・休日、第一月曜日は開館)、祝日・休日
【観覧料】普通展示 一般300円(240円)/学生200円(160円)
※()内は20名以上の団体料金です。
※70歳以上18歳以下は無料。
※特別展は展示会によって観覧料が異なります。
【住所】〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1
TEL 0838-24-2400 FAX 0838-24-2401